

真 贋

—— 絵画修復の現場から

講師 元ルーブル美術館修復員・絵画修復家 加賀 優記子

絵画修復家にとって絵画の真贋の判定は、いわゆる「目利き」としての鑑定家の視点とは又大きく違った方法で行われます。それは顕微鏡やX線といった光学機械を使うマクロの視点と、作品にじかに触れ、薬品を駆使してゆくという職人的体感にも基づいて、巧妙にしくまれた秘密のベールを暴いていくのです。作品の真贋という問題は、修復家にとっては日常切っても切り離せない問題であり、又同時にスリリングな発見でもあります。この講座では、さまざまな実例を挙げてそのエピソード、贋作の見抜き方などを詳しくお話しします。

(講師記)



マリー・ローランサン〈二人の女〉
(最も贋作が多いといわれている画家の一人)